

## 平成27年度 第1回健康づくり審議会議事録

1. 開催日時  
平成27年7月30日（木）午後2時00分～午後3時00分
2. 開催場所 保健センター2階研修室
3. 出席者
  - (1) 委員  
岡本和士委員（会長）、杉山敬委員、久馬厚委員、小田雅嗣委員、  
大島明子委員、丹羽晴代委員、今井豊恵委員、鈴木まき委員
  - (2) 事務局  
保健センター所長 尾関礼子、主査 牧聡子、保健師主任 太田あゆみ
4. 議題
  - 1 開会
  - 2 議題
    - (1) 平成26年度保健事業実績について
    - (2) 豊山町たばこ対策について
    - (3) その他
5. 会議資料
  - ・平成26年度保健事業実績
  - ・豊山町たばこ対策について

### 6. 事業内容（要点筆記）

【司会】ただ今より、平成27年度第1回健康づくり審議会を開会いたします。私は、事務局を担当しております保健センター保健師の太田です。本日、この健康づくり審議会の司会進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局の紹介をさせていただきます。保健センター所長の尾関と保健予防係の牧です。

まず、委員の変更がありましたのでご紹介させていただきます。中学校PTA代表今井豊恵様と、小学校PTA代表丹羽晴代様が平成27年度より委員とされました。よろしくお願いいたします。

議題にはいます前に、本日の審議会の配布資料の確認をさせていただきます。資料に不足等はありませんでしょうか。ありましたら、お申し出ください。

次に、審議会等の議事録についてお話をさせていただきます。

町では、情報公開の一環として、平成20年10月から町民の皆様に委員と

して参加していただく審議会や委員会等の議事録を町のホームページに掲載することになっております。本会もその対象になり、どのような論議がされたか要旨を抜粋して、議事録をホームページに掲載させていただきますので、ご承認ください。

また、議事録の内容につきましては、委員の皆様の確認が必要となります。後ほど、会長から議事録署名委員が指名されますので、指名されました委員2名の方と、会長の合わせて3名の方でご確認していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは審議会に先立ちまして、岡本会長よりご挨拶いただきたいと思っております。会長よろしくお願いいたします。

【会長】みなさんこんにちは。今期からまた新たな委員さんが増えて健康づくり審議会を出発させていただきたいと思っております。いろいろなことができますだけ町民のみなさまの健康を柱において議論をしていきたいと思っておりますのでみなさまご協力お願いいたします。

【司会】ありがとうございます。それでは、これからの審議会の進行については、岡本会長にお願いします。

【会長】それでは、ただ今から議事の進行をさせていただきます。まず、議事録署名委員の指名ですが、大島委員と鈴木委員を指名いたします。後日、事務局が本日の議事録に署名のお願いに伺いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題（1）の平成26年度保健事業実績について説明をお願いします。

【事務局】—平成26年度保健事業実績について説明—

【会長】ありがとうございます。ただいま事務局から平成26年度の事業実績についてご報告がありました。これについてご質問等ございますか。

【委員】町でこれだけの健康診断等を行っているということですが、自分は一度乳がん検診を受けましたが、他は受けていないですし、家族も受けていないので反省をしました。受診率をもう少し上げるために家族と一緒に受けないといけないと思いました。

【会長】そうですね。周りの方も誘ってぜひ受けていただくといいですね。

【委員】検診の受診率が思ったより低いと感じました。みなさん職場などで受けられているのかと思います。あと、保健事業のなかで色々な指導をされていることにびっくりしました。

【会長】ありがとうございます。今回の検診の対象者というものはどのような方でしょうか。国民健康保険加入者などありますか。

【事務局】特定健康診査の対象は国民健康保険の加入者が対象となります。次にがん検診の対象は住民全員となりますので、会社等に勤められている方はそちらで受けているかと思っております。

【委員】質問ですが、任意高齢者肺炎球菌ワクチンと定期高齢者肺炎球菌ワクチンがありますが、違いはなんですか。

【事務局】定期高齢者肺炎球菌ワクチンは国が定めた65、70、75、80、

85、90、95歳と、100歳以上の方を対象に平成26年10月から始めました。任意高齢者肺炎球菌ワクチンはそれ以前から実施しており、75歳以上の方で国が定めた対象年齢以外の方で接種希望者です。

【委員】がん検診の結果のところですが、精密検査の結果で前立腺がんまたは疑いの方が多いように感じます。他のがん検診ではがんと診断された方がいないものもありますが、前立腺がんまたは疑いの方が多いですね。

【事務局】前立腺がんの結果ですが、前立腺がん（疑いを含む）の方が13名と報告しています。その中で、前立腺がんの方が5名、疑いが8名です。

【会長】この疑いの方というのは、フォローアップといいますか経過観察をされているということですね。

【事務局】定期的に受診をしていただくということになります。

【委員】予防ワクチンなどで、特に子宮頸がんワクチンは積極的勧奨をしなくなっていますが、重篤な副反応の報告はありますか。

【事務局】今まで報告はありません。子宮頸がんワクチンについても豊山町を含めこの地域ではないと聞いています。ただ、日本中で報告がありますので国が対策を検討しているところです。

【委員】乳幼児の健診の受診率は非常に高いですが、大人の検診の受診率は低いので、これは対策を考えないといけないと感じます。また、子どもの歯科検診でも1歳6か月児は96.2%、3歳児は93.0%と高いですが、2歳児、2歳6か月児は70%台と減るのは何か原因があるのですか。

【事務局】1歳6か月児と3歳児は身体の健診と一緒に実施しています。2歳と2歳6か月児は歯科だけの検診となります。ただ、フッ化物塗布も同時実施していますので、出席者にとってメリットがあると思います。

【委員】子宮頸がん予防ワクチンについてですが、積極的勧奨を中止していると記載がありますが、これは接種しないほうがよいということでしょうか。

【会長】この予防接種はいろいろと副反応等トラブルがあります。以前はみなさん接種しましょうと言っていましたが、いろいろなトラブルもありますので、「接種したい人は接種してください。」ということになっています。全員に接種することで副反応が出る人もいるので、リスク等も理解した上で接種するか判断していただくことになりましたので、積極的勧奨はしないという比較的任意接種に近い形となっています。

【委員】これは時期が来ればお便りが来るのですか。

【事務局】積極的勧奨をしなくなったので、案内はしておりません。保健センターから案内を送るものは必ず接種しましょうというものになります。積極的勧奨をしないということなので、案内なしで希望者は接種できます。

【会長】この予防接種はかなり稀な例になっています。親御さんや周りの方とよく相談して決めていただけるといいかと思います。

他はよろしいでしょうか。では他にもありましたら、また事務局のほうへお問合せください。それではこれで議題（1）についての審議を終了します。

続いて議題（2）の豊山町たばこ対策について説明をお願いします。

【事務局】一豊山町たばこ対策について説明―

【会長】ありがとうございます。ただいま事務局からたばこ対策について町の現状と対策について説明をいただきましたが、これについてご質問等ございますか。非常に興味深いデータが出ていますが。

【委員】未成年者の喫煙をなくすというところで、現状が男性6.5%、女性5.9%という数字がありますが、このデータはどのように出されましたか。

【事務局】これは、平成24年度にアンケートを実施しまして、16歳から20歳未満の方へ無作為に郵送させていただきました。ただ返信数が80ということで、80人のデータなので信頼性があるかどうかということもありますが、返信いただいた中でのデータとなっています。

【委員】あと、妊婦さんの喫煙で、7名が喫煙をやめたということですが、これはどの時点でのデータになりますか。

【事務局】これは妊娠を機に禁煙した方の数になります。この方たちは3か月児健診の時点でも禁煙を継続していましたが、その後はまだ追跡していません。

【会長】データで面白いのは、「子どもがいる家庭の喫煙者」で父親は年齢が上がるにつれて喫煙率が下がっているのに対し、母親は上がっているという結果になっています。この部分から、かなり男性に対しては指導があったり、喫煙しにくい環境ができていられるかも知れません。それに対し、女性は妊娠時に禁煙をしたまま子育てをしていき、中学校に上がるころに喫煙するきっかけがあるのかも知れません。実際に父兄のみなさんが感じることはありますか。

【委員】私の周囲には喫煙するお母さんがいないので、この結果を見てすごいなという驚きがあります。家庭内のことでいえば主人が喫煙者なので、中学生の子どもたちが、学校のほうで体に良くないということを教わっているので、父親がたばこを吸うと、この煙が体に悪いと煙たがり、父親は肩身の狭い思いをしています。その様子を見ていると、子どもたちに関しては、興味本位で吸ってみるといえるかなと思うので、健康日本21計画の中で目標としている数字を期待したいと思います。

【委員】質問ですが、禁煙外来の紹介をしています。治療は実費でしょうか。何か補助などありますか。

【事務局】禁煙外来での治療は保険適用になりますので3割などの自己負担で治療していただくことができます。ただ、禁煙外来の対象は、喫煙年数などの規定があり、該当する方が保険適用となりますので、長年喫煙をしている方は対象となりますが、まだ若い方や、喫煙年数が短い方などでは、対象にならない場合があります。

【委員】たぶん喫煙はすごく悪いということが浸透しているので、男性では吸いにくい環境ができていられるのかもしれない。私は喫煙しないのでよくわかりませんが、女性でもなかなかやめられないという話はよく聞くので、妊娠して禁煙をしても、男性ほど制約のない女性は喫煙率が年齢とともに上がるのかなとデータを見て思いました。私の周りには喫煙者がいないのでよくわかりませんが、働いていた頃などを思うと、女性が強くなってきて堂々と喫煙コーナー

に入っていく男性陣としゃべりながら喫煙をしているのを見てすごくびっくりしたことがあります。そういうことが出来るようになり、余計増えてしまうのかなと思ったりします。

【会長】そうですね、コンビニの前の喫煙コーナーで女性が堂々と吸っていることもあります。そういう時代になっているということにびっくりします。

女性の方の喫煙のきっかけで多いのが、ダイエットだったりすることもあります。また、一番多いのは母親が吸っているということです。喫煙者のほぼ100%が母親も喫煙者です。他には彼氏に勧められたり、友達に勧められるということが多いようです。女性のほうが男性よりも比較的そういう環境が多いのではないのでしょうか。

【委員】男性は会社によっては管理職に就くには喫煙者はなれないなどというところもありますし、会社の規則が守れない方は管理職に向いていないと言われていたりする場合があります。その点、女性は許される点も多くなっているということもあるかもしれません。それでもせめて子育てをしている間は吸わないでいてほしいなと思います。だから保健センターに若い方がいらしたときによくアドバイスをしてほしいと思います。

【事務局】ありがとうございます。

【委員】保健所では禁煙の指定飲食店をしていますが、愛知県内でこの管内が禁煙飲食店の指定数が最下位です。ものすごく喫煙をする人が多いということで、全県的に喫煙率もすごく下がっていて、飲食店でも禁煙をするところは増えているのに、この地域のみ一向に増えていかないというのはなんでかな、とそれがわからないと禁煙をする人が増えていかないのでは。東三河地域はかなり禁煙の取組みが進んでいて、昼時はほとんどの飲食店で喫煙できません。そういう地域と、禁煙を全然受け入れようとするところがない土壌というか環境というのは、何が原因かは分かりませんが、その何がの部分を見ていかないといけないと思います。平気でタバコを吸っているお店の中に子どもを連れていく方が多ければ、なかなか禁煙対策は進まないと思います。逆にみんながそういう環境を避けていけば、お店も禁煙という形を取り入れるのではと思います。

【会長】そうですね。他の地域、例えば禁煙の意識の高いところと、意識調査などを比べるのも面白いかもしれませんね。

私も一つ気になったのは、禁煙したいと思っている人は57%いるのに対し、逆にしたくない人も4割いる。ちょっとびっくりしたのですが、これは男女別ではどうでしょうか。

【事務局】男女差はありませんでした。

【会長】男女差はないのですね。ということは、まだまだタバコを吸いたいと言う人がいるのですね。これも背景はどんな風か別の調査か何かで、ピックアップして調べるのも一つかもしれませんね。意識調査をして何か原因が解れば対策も変わってくるかもしれません。

【委員】実感とはだいぶ喫煙率も違うかと思いますが、実際に我々の若いころは周りはみんな吸っていました。今はみんなほとんど吸わない人が多いです。

また、意識調査でも我々が吸っていた時代は6割7割はすぐやめたいと思っていたし、3割ぐらいいは何があってもやめないと書いていました。現在は親の病気や自分の病気等いろいろあり、若いころより意識も上がってきていると思います。

【会長】医師の立場からみるとどうですか。

【委員】禁煙の指導はなかなか患者さんに聞き入れられないですね。病気などで体調が悪くても、調子が良くなると吸ってしまうという方もいます。禁煙したくないという人の半分ぐらいいはやめれなくなっているのでは。本当に体調不良でも吸っています。禁煙したい人へはしっかり指導が必要かと思います。

あと、禁煙をした動機の中で、健康に悪いからやめたという人が50%ほどいますが、これは何歳ぐらいの方が書いていますか。何歳ぐらいの人がよく禁煙しているかわかりますか。

【委員】女性では、吸う場所をわきまえて吸う方も多いですね。ここでは吸うけど、他の所では吸わないなど。なのであまり吸う方は見かけないけど、このようなアンケートでは数に上がってくるということがありますね。

【会長】実感でも若い男性では減っていますが、女性ではじわじわ増えていますよね。

【事務局】以前のアンケートで、禁煙された方に、何年前に禁煙したかを調査しています。40歳代の男性では1～5年前に禁煙した方が多いです。50歳代の男性では20年以上前に禁煙した方が多いです。このアンケート結果から30代後半から40代前半に禁煙する方が多いと考えられます。

【委員】子育て世代は30歳代が多いですね。やはり出産が一つのきっかけになりそうですね。

【会長】昔はホテル族というものがありませんでしたね。そういう風になってくれればいいですね。家の中では吸わないという。最近は外でタバコを吸えない環境が増えた分、家でのマナーが心配です。妊娠中も喫煙をしていた方は、夫も喫煙者というデータがありました。家族みんなに指導しないと、妻だけに指導するのではいけないと思います。家族が協力しないとダメです。喘息のお子さんの両親を調べると、どちらかが喫煙者というデータもありました。家庭としてどのように考えるかという啓発も大切です。小学生の頃からタバコはダメと教育していくことが禁煙対策につながっていくのではと思います。教育委員会などとの協力が大切ですね。

【委員】中学校では毎年1年生に禁煙教室があり、子どもも話を聞いて「副流煙が体に悪い」とか難しい言葉で主人に言っています。

【委員】小学校でも麻薬か何かの話をするときにタバコについても話をしてもらっていると思います。

【会長】積極的に子どもたちへは、興味をもつ前に指導していく、小学校の段階から意識をさせないという方法も一つですね。それから家庭での教育が一番大きいかと思いますので、なかなか親の言うことは聞かないかもしれませんが、禁煙対策を家族も含めて、特に子どもさんへの禁煙対策を進めれるといいのか

など提案していければと思います。

他に何かご意見はございませんでしょうか。

それではこれで議題（２）についての審議を終了します。

その他のところで事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】 次回の審議会については平成２８年２月頃の開催を予定しています。事前に連絡いたしますのでよろしく願いいたします。みなさまの健康づくり審議会の委員の任期は平成２８年７月までとなっております。

【会長】 これをもちまして本日の議題はすべて終了いたしました。みなさまご協力ありがとうございました。

#### 議事録の署名

平成２７年８月２５日

岡 本 和 士

大 島 明 子

鈴 木 ま き